

井原議員（広志会）

令和5年2月13日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）入試制度改革における十分な検討の有無について

生徒や保護者、教師が疑問に思っている入試制度改革は十分な検討が行われているとは思えないが、どのように認識しているのか、教育長に伺う。

（答）

この度の、公立高等学校入学者選抜の改善につきましては、本県が進める「学びの変革」や新学習指導要領の趣旨を踏まえた、各高等学校の教育目標の実現に向けた入学者選抜の質的改善を図る必要があることなどを踏まえ、「広島県の15歳の生徒にどのような力を身に付けさせたいか」という観点から行っております。

新しい制度の検討に当たりましては、より多くの方の意見を参考とするため、令和元年6月に県内全ての公立中学校等や、高等学校及び特別支援学校の校長を対象に制度に関するアンケートを実施したところでございます。

令和2年4月には、全ての公立中学校1年生に対しリーフレットを配付し、また、広報誌「くりっぷ」等におきまして、制度が変わることについての記事を掲載するなど、広く、中学生や保護者等に周知を行ったところでございます。

また、令和元年9月に「改善素案」を公表した後、パブリックコメントを実施いたしまして、頂いた御意見等を参考としたところでございます。

県教育委員会といたしましては、こうした取組により、中学生や保護者、教職員から一定の理解が得られているものと考えております。

引き続き、全ての受検者が安心して選抜に臨むことができるよう、努めてまいります。